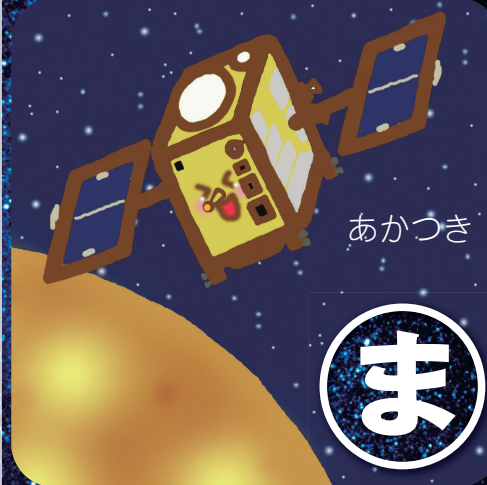
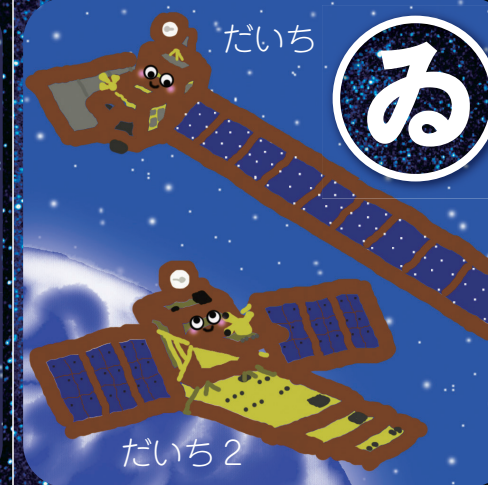
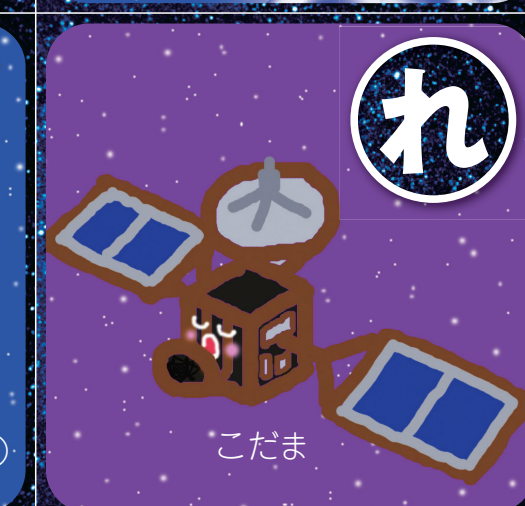
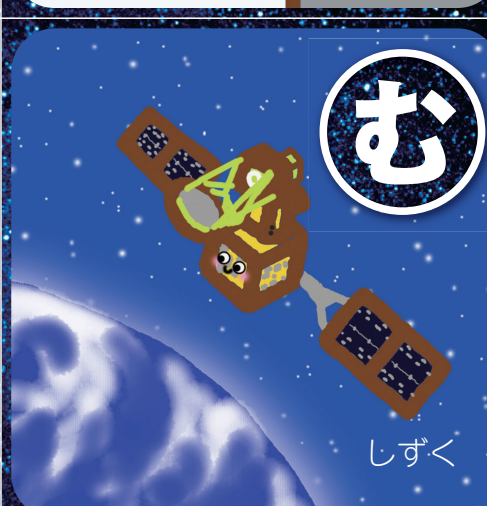
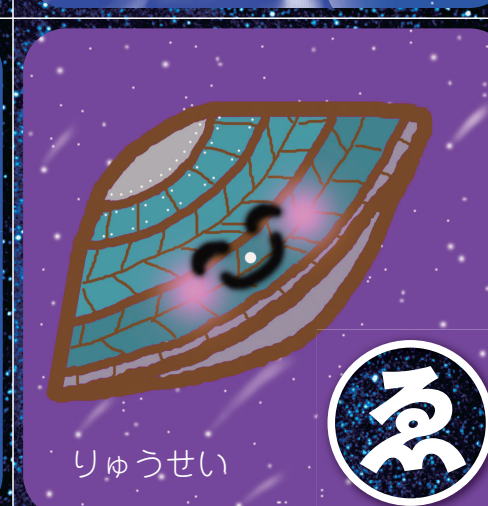
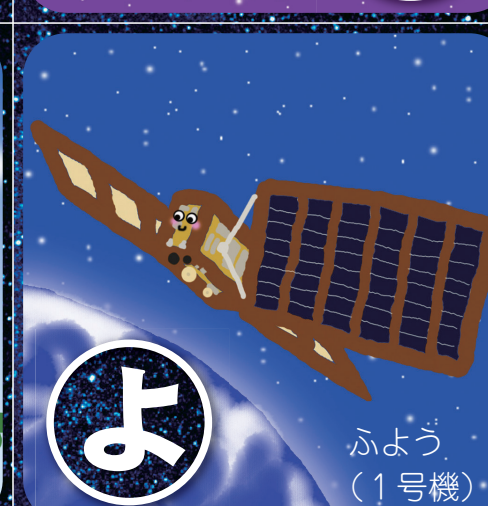
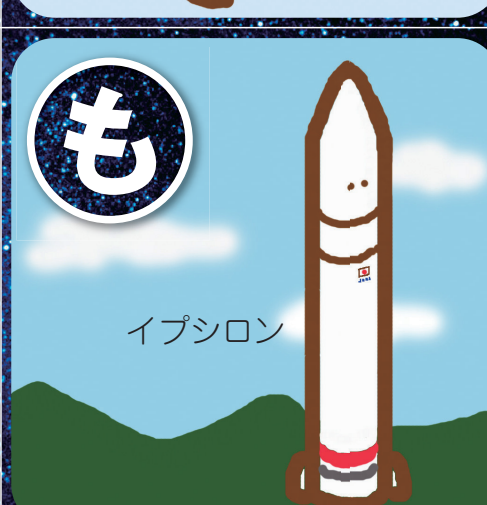
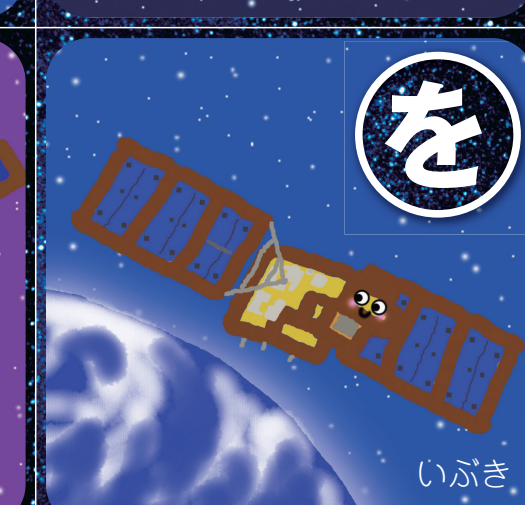


の  みちびき	あかつき ま 	だいち る  だいち2	もも(1号機) る 
内之浦 宇宙空間観測所 は 	JAXA 発足 み 	みどり (1号機) ゆ 	こだま れ 
おおぞら ひ 	しずく む 	りゅうせい る 	おりづる ろ 
かぐや ふ 	たけさき め 	ふよう (1号機) よ 	すいせい わ 
ラムダロケット (5号機) へ 	イプシロン も 	きく (7号機) (おりひめ / ひこぼし) ら 	いぶき を 
はくちょう ほ 	白田 宇宙空間観測所 や 	しんせい り 	HTV (1号機) (こうのとりの) ん 

海洋観測衛星「もも（1号機）」(MOS-1) 打上げ：1987/2/19 日本で最初の地球観測衛星。海洋を中心とした地球の観測を行い、今後の地球観測衛星の基本となる技術確立した。すべて順調にこなし、なおかつ体も健康だったため、約8年間運用された。	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)「だいち2」(ALOS-2) 打上げ：2006/1/24 だいち（ALOS-1）は、地球の陸域を3次元で観測し3次元地図の作成に貢献するとともに、災害状況や環境変動の把握、資源探査、違法伐採や不法投棄を監視した。2016年現在は、だいち2（ALOS-2）が運用中。	金星探査機「あかつき」(PLANET-C) 打上げ：2010/5/21 予定されていた金星軌道への投入には失敗したが、5年後の再接近に願いをかけ、不要なものを投棄してチャンスを待った。打ち上げから5年後の12月、満を持して金星軌道への再投入実施。無事に成功し、2016年現在、金星軌道を周回中。	準天頂衛星「みちびき」(QZS) 打上げ：2010/9/11 GPS衛星の補完・補強が目的で、4機そろって準天頂システムのコンプリートとなるが、2016年現在、7機までが計画されている。（2016年現在情報）
データ中継技術衛星「こだま」(DRTS) 打上げ：2002/9/10 当時、世界最高速度の衛星間通信実験に成功。みどりやきらり、だいちやきぼうなどの、衛星と衛星を中継し、みんなをつなげる役割を担った。衛星の基礎となるバスの中型静止三軸技術の開発も行い、2016年現在も運用中。	地球観測プラットフォーム技術衛星「みどり（1号機）」(ADEOS-1) 打上げ：1996/8/17 地球環境監視、地球観測プラットフォーム技術・データ中継技術の開発を目的に打ち上げられたが、太陽電池パドルが破断し約10ヶ月でやむなく運用を断念。しかし、地球観測分野における国際協力の推進等、世界的には大きく注目され、評価は高かった。	JAXA 発足 発足日：2003/10/1 文部科学省宇宙科学研究所 (ISAS)・独立行政法人航空宇宙技術研究所 (NAL)・特殊法人宇宙開発事業団 (NASDA) の3つの機関が統合されて発足した。	内之浦宇宙空間観測所 開設日：1963/12/9 ロケットの射場は通常、広い砂漠地帯や海岸沿いにあるので、山地に立つロケット発射場というのは、世界的にも珍しく、科学衛星や観測ロケットの打上げおよび管制を行っている。（鹿児島県肝付町）
伸展展開機能実験ペイロード (DEBUT) 打上げ：1990/2/7 微小重力環境におけるテザー・ブームラン衛星の実証。先端に空力傘をつけた伸展ブームの伸展・収縮実験、および振動測定を実施。体はとっても小さく、傘をかぶった珍しい形のペイロード。	軌道再突入実験機「りゅうせい」(OREX) 打上げ：1994/2/4 日本初の大気圏再突入実験機。再突入中時の高温により、一時ブラックアウト現象が起きて通信が途絶えたものの、再突入時の空力加熱特性や通信データをしっかり記録していたため、目的の任務をこなして、その役目を終えた。	第一期水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W1) 打上げ：2012/5/18 気象予測や漁業などに利用できるよう、降水量、水蒸気量、海洋上の風速や水温、陸域の水分量、積雪深度などを観測し、地球の水循環メカニズムを解明すべく、宇宙に飛び立ち、2016年現在も地球を見つめてくれている。（GCOM-Cは、気候変動を観測）	中層大気観測衛星「おおぞら」(EXOS-C) 打上げ：1984/2/14 中間圏と、磁気圏のオーロラ観測及び電離層プラズマの特異現象を解明。ロケットから分離する際に衛星の表面がロケットのガスで汚れた。その影響で太陽の高温にさらされ蓄電池が劣化してしまったが、巧みな運用技術で電池使用量を調整、傷だらけの体で5年近くもがんばった。
ハレー彗星探査機「すいせい」(PLANET-A) 打上げ：1985/8/19 当時76年ぶりに到来したハレー彗星を追うため、世界各国が協力して次々に接近を挑み多くの成果を挙げ、その探査機群は「ハレー艦隊」と呼ばれた。	地球資源衛星「ふよう」(JERS-1) 打上げ：1992/2/11 合成開口レーダ及び光学センサーによる地球観測技術確立。資源探査等を行い、日本以外の国へも情報を供給し、予定されていた期間を延長して7年8ヶ月も運行され、日本の調査隊による古代エジプト遺跡の発見にも貢献した。	TR-1A「たけさき」 射場：種子島宇宙センター（鹿児島県） 高さ：13.44m 直径：1.13m 重さ：10.26t テスト試験機。実験終了後はパラシュートが開いて海上に落下、フローテーションバッグにより浮遊し回収が可能。愛称の「たけさき」は、種子島宇宙センターの竹崎射点に由来。	月周回衛星「かぐや」(SELENE) 打上げ：2007/9/14 「おきな（リレー衛星）」と「おうな（VRAD衛星）」を乗せて月調査へ出発し、運用中は美しい月の画像を地球に送信し続けてくれた。最後は月の表面へ制御落下され、2年間の運用を終えた。
温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) 打上げ：2009/1/23 温室効果ガスの濃度分布を測定。また、測定の際に誤差の要因となる雲・エアロゾル(大気粒子状物質)も観測。一時、センサ内の冷却機能が停止してしまったが、再起動で無事に立ち上がり、全機能フル稼働で2016年現在もデータを送り続けている。	技術試験衛星「きく（7号機）」(ETS-VII) 打上げ：1997/11/28 ランデブ・ドッキング技術・遠隔操作技術の軌道上実験を実施。ひこぼしは追跡衛星（本機）、おりひめはダーゲット衛星。1998年の七夕に、軌道上で見事、ひこぼしはおりひめをつかまえ、5年間仲良く過ごした。	イプシロン 射場：内之浦宇宙空間観測所（鹿児島県） 高さ：24.4～26m 直径：2.6m 重さ：90.8～95.1t 安価で即応性の高い、小型人工衛星打ち上げ用の固体燃料ロケット。組立・点検など運用の効率化をはかり、また管制人員も減らし、コストパフォーマンスの低減化で話題になった。	L-4S-5 射場：鹿児島宇宙空間観測所 高さ：16.5m 直径：0.735m 重さ：9.4t ラムダロケット5号機は、日本初のペイロード搭載に成功。（ペイロードは「おおすみ」）
宇宙ステーション補給機「こうのとり（1号機）」(HTV) 打上げ：2009/9/11 ISSへの物資の補給が主な役割。世界初の無人ランデブ飛行が大きく注目された。世界の無人補給機の中ではハッチ(扉)が最大。与圧部・非与圧部・電気部・推進部の4つのモジュールと曝露パレットから成り、与圧部には人が入室可能な有人対応型。	科学衛星「しんせい」(MS-F2) 打上げ：1971/9/28 日本初の科学衛星。電離層や宇宙線の異常を発見したり、太陽の短波帯電波の発生メカニズムを解明したりと、世界各国にも大きく貢献した。	臼田宇宙空間観測所 開設日：1986年 国内最大級の64mパラボラアンテナがある観測所。（H-IIBの高さが56mなので、ロケットよりも大きい!）このアンテナを介して宇宙探査機へコマンドを送ったり、衛星から観測データを受信したり、常に宇宙とつながっている場所。（長野県佐久市）	X線天文衛星「はくちょう」(CORSA-b) 打上げ：1979/2/21 日本初の天文衛星。X線バースト源をはじめとするX線天体の広帯域スペクトルと強度変動について観測した。物理学者でもある小田稔先生が開発した「すだれX線コリメータ」が採用され、画期的なデータを数多く残した。